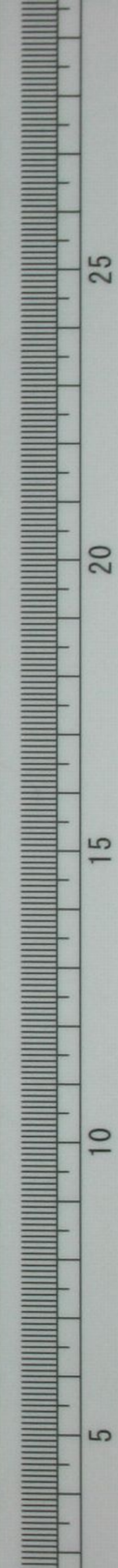
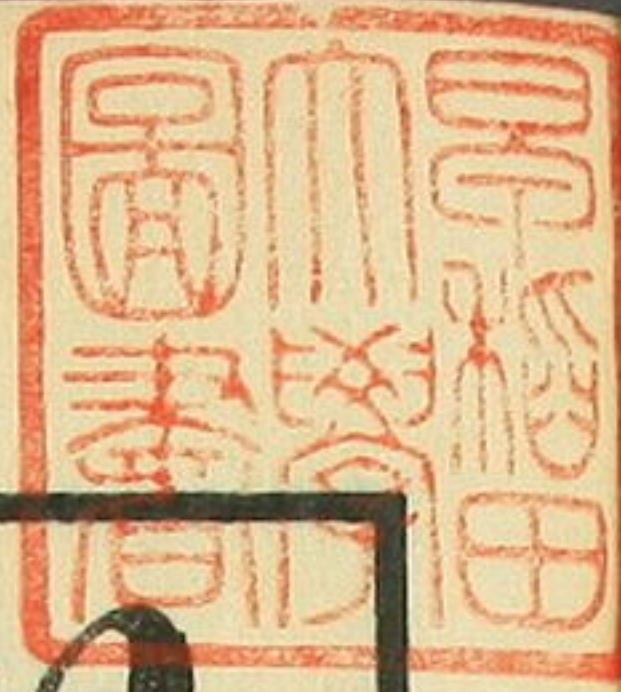




五十韻比已卷
下

土岐文庫
文庫17
W186
2





此五十韻
 不名我
 皇國如人の自

三十五

文章 17
 W186
 2

昭和六十年二月一日
 山崎善吉唐氏
 寄贈

010185195290

總乃音之萬
言此五十四韻
生一活用自生

少志之規則正
教之他亦乃音
語之比較之出

吾れ如くかゝるを
自體に解する事
も予も解も私
の

作意を加ふ事
なるは海あり
あ。い。う。ら。ん。た。の。五

之六 泪の親を
則 母 歎 と 不
方 約 よう 孝子 以下

三十一

丸 行 名 子 韻
引 音 り ろ ら 丸
あ 坊 っ っ 屋 子

あ。さ。た。た。ま。は。り。
也。つ。程。目。乃。横。釣。
を。初。段。の。上。に。

あ。さ。た。た。ま。は。り。
也。つ。程。目。乃。横。釣。
を。初。段。の。上。に。

三十九
有。神。ゆ。う。紙。三。
段。と。ひ。え。り。暫。
三。孫。寄。り。え。れ。

三十四
有。紙。四。段。と。ひ。え。
お。ら。た。た。ま。の。目。え。
と。紙。を。と。ま。え。

ふ。お殿様下
心。多。子。成。り。て
か。ん。き。な。り。ん

お。公。名。を。つ。せ。ん
ぬ。ま。り。な。り。は
う。れ。を。未。然。の

詞と云ふ二段を
傳ふにそあふく
言はまじらむといふ

以て先願とす物
至んば如く
物をとらばその成

光。皇。后。之。子。也。
語。尾。皆。之。也。二
股。之。也。百。分。三。段。ハ

用。主。之。也。今。規。之
用。後。之。也。所。之。也。
あ。少。之。也。左。之。也。

とありて時を語尾
時、此三段の時
を四段の命令言

之をあらせしむ
多分とありて
今令を了る朝

語尾より分る四段

中より満るるれを

四段の活用詞

等より今これ如く

中より一段下二段の

活用をありせしむ

異種の花用詞と
ふ今現よ人々
此處と此處のを原

ら此處の多々
ふ今現よ人々
此處と此處のを原

そふく子ぬく
あ行を記ぬ比下
おのすらひとよふ

れよむのほ濁音
よき散るる語
るく賤山のたの

奇を以てしんば
子又母を格あ
理を初我知

満りはる残り
言西並ぬまの
小こる君の

音のついでに
を回音の時
と名を別ある

事としてあ
るに母韻を
清く正しく

單音多理也

如如の二音

名の二音

如如の二音

乃音の二音

二音の二音

二音をいふに
此音物と成る
之よりんあ初の

音字存可至るに

や。遊。を。よ。れ。五。音。を。つ。あ。は。二。音。を。知。り。と
厚。と。成。つ。乃。二。音。物。と。ま。り。と。い。ふ。と。あり
う。此。二。音。物。は。を。ゆ。と。知。ま。り。い。え。の。二。音
物。を。は。と。成。れ。た。の。二。音。つ。ま。り。と。よ。と

あ。の。ま。し。わ。わ。う。あ。ん。ん。の。ま。ま。音。い。う。あ。の。
二音はくまり結わぬまうい乃二音は
くまりぬとぬううれ二音はくまりてう
とぬまうい乃二音はくまり結わぬまうい
乃二音はくまりぬとぬううれ二音はくまり
ぬ。え。あ。わ。を。ま。う。ま。ま。な。れ。を。分

ち。あ。を。し。い。う。こ。え。を。回。ま。る。れ。い
わ。り。ま。し。易。わ。り。し。う。く。見。ま。る。も。あ。ま。ま。
ま。ま。く。つ。る。し。結。わ。ぬ。い。え。わ。り。結。わ。う。
ま。あ。ま。ま。い。ま。音。の。深。ま。る。り。ま。ま。より。回
ま。ま。用。ま。ま。り。ま。れ。ま。ま。詞。ま。は。た。し
ま。ま。ら。ぬ。ま。ま。し。ひ。ま。ま。の。ま。ま。し。ま。ま。ま。ま。の。明

を程今いそれ名別 あまのりめくをれと

詞の活用 こつらと持を今といふも給

あゝと

あゝと 相ま さへひも

ま ほの 五音と詞

比下を用ふ す 時の音

使 ま して わ ぬ う 急

然 乃 亦 さ 久 く 久 く 故

乃。學。を。と。能。を。能。を。能。と。ま。さ。い。わ。れ。り。
つ。ひ。甲。斐。を。ま。ひ。ひ。る。を。か。あ。れ。り。
ま。ひ。を。逢。い。あ。ふ。れ。る。を。あ。う。れ。り。め。く。つ。心。
鼎。を。か。る。く。な。る。能。を。能。の。あ。と。く。つ。心。
ま。ま。か。る。る。を。逢。う。る。の。
め。く。つ。心。を。い。ふ。一。誤。の。事。

多。ま。さ。い。わ。れ。り。
乃。是。れ。道。理。を。考。
一。五。音。を。通。り。

試きは琴子あり

るうほしんくま

妙の活用と詞小

るあし一國をまれ

僅よおまるに

をねつるひわや

付。仍。乃。活。

用。乃。乃。乃。乃。乃。

乃。乃。乃。乃。乃。乃。

乃。乃。乃。乃。乃。乃。

乃。乃。乃。乃。乃。乃。

乃。乃。乃。乃。乃。乃。

子ぬるは女海子
去る人を書生ふ
て七二千也

三子海子如音初
子ぬるは女海子
知まらじ家

皇國のよき如き
と云ふ乃玉十韻の
外にそは源河ら

難しとするを
あはれよく縦横
乃自ら正和の

法は諧し為こ

子秋の詞如原

由を心し活用

乃法を心し相名を

了西洋支那の

語法を心し其の

國語之口以而子
之口在何我以此
孔的當如語也

統釋
其先其本在
正之其以末自

学子如幼童
学子如幼童
学子如幼童

明治五壬申年十一月發行

大阪心齋橋通北久太郎町

梓元 柳原喜兵衛

同本町

印通所 書籍會社

